

3月・春期講習の授業記録をお送りいたします。

陽春の候——ご父母各位におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

この春から受験生になる皆さんへ——まずは、伝えたいことがあります。今後は「受験生としての自覚」を少しずつ持ちながら、日々の学習に臨んでいかなければなりません。そして、これまで以上に1回1回の定期試験の結果がとても大切になっていきます。部活動等何かと忙しい中であっても、ちょっとした時間を見つけてはコツコツと復習をしたりするなどして、少しずつでも家庭学習・自主学習の習慣化を図っていき、定期試験前にあわてることのないようにしていきましょう。



★
在塾生各人においては、これまでに学習した個々の単元や学習分野において、習った時点ではそれなりに理解していても、時間が経ってから再度既習事項を確認してみると思った以上に忘れていた箇所も多く、また定着度も芳しくないということに鑑み、先月は主に「1年間の総まとめ」を中心に行いました。

また、3月27日(水)～4月6日(土)の正味10日間にわたって、「春期講習」を実施しました。こちらでは受講生のそれぞれのニーズを踏まえながら、個々人が有する学習課題の解決に努めていきました。新学年になってからの学習には色々な不安が生じるかもしれませんが、個別指導会の講師一同が全力で在塾生の学習をバックアップしていきますので、ご父母各位におかれましてはどうぞご安心くださいませ。

当塾では、中学生を対象に【土曜無料補講】を実施しております。在塾生はぜひ積極的に参加して、基礎学力をつけていくようにしてください。

■重要なお知らせ■

4月28日(日)～5月5日(日)の8日間、塾がお休みになります。

上記のお休みに関する「振替授業」は原則発生いたしません(5月及び6月に「5週間」あるため)。ご注意ください。

■塾からのご案内■

「紹介キャンペーンカード」をご活用ください!

本年度より新たな試みとして「紹介キャンペーンカード」を導入することになりました!

お知り合いで塾をお探しの方がございましたら、

この「キャンペーンカード」を積極的にご利用いただき、当塾を応援していただければ幸いです。

大きな特典として、ご紹介していただいた方が入塾する運びとなった際には、

ご紹介者(在塾生のご家庭)のお月謝を「1か月分半額」にさせていただきます!

是非ご活用くださいませ。

※この紹介キャンペーンカードは、期間限定(3月1日～4月30日)のカードでございます。ご注意ください。

学習のアドバイス

新年度になりましたので、しばらくは科目ごとにテーマを絞って話を進めていきたいと思っております。

今回のテーマは、数学の「作図問題」です。みなさんは「作図問題」に出会った場合、一番初めに何をしますか。「そんな問題によって違うに決まっているじゃないか」と思った人がいるかもしれませんが、実はそうではありません。「作図問題」で最初にする事は決まっています。それは、「正解の図をフリーハンドで描く」ということです。こうすることで、頭の中で漠然としていたイメージを視覚的に捉えることができ、考えやすくなります。それからコンパスと定規を使って作図をしていくのですが、ここで、基本的な作図の方法を整理しておきましょう。(それぞれの手順は教科書で確

認してください。)

- ① 線分の垂直二等分線の作図
- ② 角の二等分線の作図
- ③ 直線上の1点を通る垂線の作図
- ④ 直線上にない1点を通る垂線の作図

この4つの方法は、2つのグループに分けることができます。使われている用語に注目してください。

①は②には「二等分線」、③と④には「垂線」という用語が共通して使われていることに気づきましたか。「二等分線」・「垂線」はそれぞれ「半分にする線」・「直角になる線」と言い換えることができますので、何かを半分にしたいなら①か②、直角を作りたいなら③か④の方法を使えばいいということになります。ほとんどの「作図問題」は、この4つの方法をうまく組み合わせることで、解答することができますが、もう1つだけ押さえておいてほしい5つめの作図の方法があります。それは「正三角形の作図」です。これは60度の角を作りたい場合に使います。今年の3月に行われた県立高校入試の作図問題は②と③に加えて「正三角形の作図」を利用して「105度の角」を作図する問題でした。

「作図問題」の解法は多岐にわたりますので、ただ単に解法パターンを覚えるだけでは入試問題には対応できません。また、訳も分からず当て推量で線を引き続けているのは時間を無駄に費やしてしまいます。問題文を丁寧に読み、与えられている条件を細かく分析してから解答するよう心掛けてください。



平成31年度入試を振り返って ①

平成31年度入試の全日程が終了しましたので、これから何回かにわたって、その特徴や傾向について分析してみたいと思います。第1回目は、県立高校入試における倍率についてです。

12月の進路希望調査の結果からある程度予測はできましたが、近隣の高校において、偏差値60前後の学力上位校では、募集人員を減らした川越と川越女子で倍率が上がり、他は下がりました。ただし、志願者数についてはほぼ前年並みで、大きな変動はありませんでした。

「学校選択問題」の導入による厳しい競争を避けた受験生が県内私立高校にかなり流れた影響により、昨年は倍率が下がった偏差値50前後の学力中位校ですが、今回もその傾向は続いている模様で、倍率が大きく上昇した学校は所沢中央のみでした。この煽りを受けて、私立の併願校を探すのが難しくなった偏差値40前後の生徒が受験する学力下位校においては、ほとんどの学校で倍率が上昇しました。

難易度の設定に課題があったために生じた学力格差を解消する目的で始まった、2種類の問題による入試ですが、学力上位校よりの共通問題が増加しており、学力中位校・下位校への配慮があまりされていないようです。そのため、内申点のマイナスを本番の得点で挽回することが難しくなっています。

こうした状況を踏まえ、今後新たな動きがあるかもしれませんので、情報が入り次第、このコーナーでお伝えしてまいります。

教室長日記

新しい時代へ



まもなく「平成」が終わり、「令和」の幕が開けます。それとほぼ時を同じくして、これから「学校教育」が、そして「大学入試」が大きく様変わりしようとしています。今回は、大きくこの2つのテーマにしぼって「変化する教育」についてお話をさせていただきます。

まず、「学校教育」について。ご承知の方も多くいらっしゃると思いますが、順次「新学習指導要領」に移行します(すでに一部移行措置が取られています)。従来は「学んだことをどの程度理解できているのか」という評価が重要視されていました。しかし、今後は単に知識や技能を習得するのみならず、それをもとに「自分で考えたり、表現したり、判断した上で、実際の社会の中でそれを役立てる能力」が求められるようになります。こういった能力を養成する方法として近年取り上げられているキーワード、それがアクティブ・ラーニングです。このわかりやすい例としては、小学校教育における「プログラミング教育」の必須化や、小学3・4年における「外国語活動」、5・6年生における「英語の教科化」などが挙げられます。そして、高校教育においても「公共」「理数探究」など、この新しい教育の指針に沿って、いくつかの教科が新設されることになります。

次に、「大学入試」について。従来のセンター試験に代わり、「大学入学共通テスト」が導入される運びとなりました。ここでも従前のマークシート形式に比べ、より思考力・判断力・表現力などを問うために「国語」や「数学」では記述式の設問が取り入れられ、「英語」に関しては、各種試験や検定などを活用しながら、いわゆる四技能(聞く・読む・話す・書く能力)がより様々な形で問われていくことになります。

学校教育の世界に現れた、大きな改革の波。そんな中であって当塾は、講師一同日々研鑽を積みながら、時代の変化に合わせて柔軟に対応し、また大切なお子様をお預けくださったご父母各位のご期待に添うべく、より良質な授業を在塾生の皆さんに提供できるように尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。